

「中期目標（第一期）に係る業務の実績に関する評価結果」における法人評価委員会意見への対応状況について

「中期目標（第一期）に係る業務の実績に関する評価結果」（広島県公立大学法人評価委員会・平成25年7月）において意見が付された小項目は、次の9項目であった。以下、項目ごとに、意見・指摘事項に対する平成25年度の対応状況を報告する。

区分	頁	意見・指摘事項	各担当部局における対応状況
教 育	24	【遠隔講義システムの改善と高度利用】（No.41）	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ システム導入による効果検証を行いつつ、更なる有効利用に努められたい。</li> </ul>	<p>【総合教育C】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遠隔講義システムの持つ教育上のマイナス面をプラスに転ずるため、全学共通教育科目において、本システムによる授業に、3キャンパス合同のフィールドワークや対面授業などを組み合わせることを検討し、平成25年度後期の全学共通教育科目・複合科目「地域の理解」において先行的に実施した。広島キャンパスからの発信コマ数が多くなったこともあり、その効果の検証は十分ではないが、学生による授業評価の満足度は高く、肯定的な回答の割合は97.8%であった。なお、授業の最終回に企画した「発表会」については、「遠隔講義形式ではなく合同で（対面で）行いたかった。」との自由記述意見もあった。</li> <li>・ 遠隔講義システムにより予め基本となる情報を発信し、その視聴がなされていること（事前学習）を前提として行う授業方法を検討している。</li> </ul> <p>【人間文化学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遠隔講義システムによる他学部開講専門科目や共通教育科目の履修を引き続き奨励する。</li> <li>・ 健康科学科において、生命環境学部で開設している高校理科（生物）の補習授業を遠隔講義システムにより広島キャンパスで受信し、2名の健康科学科1年生に提供した。高校での学習歴に課題を有する学生2名に提供したもので、受講した学生から「遠隔授業であったが、しっかりと授業に参加することができた。」「先生の説明が分かりやすく、補講を受けられて良かった。」など、評価するコメントがあった。</li> </ul> <p>【経営情報学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部の特別講義や学外者を対象とするセミナーの一部を、遠隔講義システムを利用して他キャンパスに発信した。今後も一層の利用拡大に努める。</li> </ul> <p>【生命環境学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育改革推進委員会において検討されている、他学部他学科授業科目の履修促進に係る制度改革を視野に入れて、遠隔講義システムを活用して他学部へ提供可能な授業科目の選定に着手した。また、遠隔講義システムのハード面（講義室・機能）やソフト面（キャンパス間での時間割調整・講義実施方法）での課題について検討を開始した。</li> </ul>

区分	頁	意見・指摘事項	各担当部局における対応状況
			<p>【保健福祉学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学共通教育の充実・改革検討と併せて、遠隔講義システムの利活用について検討を継続している。</li> </ul> <p>【総合学術研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命システム科学専攻の外部講師による授業「生命システム科学特別講義」の全15回を、遠隔講義システムにより、3キャンパスの院生（博士課程前期及び後期在籍者）が同時に受講できるようにした。</li> </ul>
	25	<p><b>【学生による授業評価の実施】(No.44)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果については、学長、副学長、学部長が共有し、必要に応じて教員への個別指導に活用するにとどまっていることから、引き続き、教育の改善を図るため、他大学の活用状況等も踏まえ、教員間での共有を進めるなど、一層の有効活用を図っていただきたい。</li> </ul>	<p>【総合教育C】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度第2回FD研修会（平成25年3月7日）において、中間アンケートを活用した授業改善に係る事例発表と討論を行った。発表者は中間アンケートの活用に積極的に取り組んだ教員とし、彼らの実践を全学の教員で共有し、組織的な授業の改善に資することを目指した。</li> <li>アンケートの結果は、むしろ積極的な動機付けの材料としたいと考えている。例えば、評価の高い授業実践を行っている教員の授業を学部推薦により公開するなど、教員間で共に学び合うための情報として、活用方法を引き続き検討する。</li> </ul>
		<p><b>【インターンシップ制度の充実】(No.48, 84)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学共通教育科目「インターンシップ」や経営情報学部及び生命環境学部において専門科目を開講するとともに、就業体験の受入先企業の開拓推進を図っており、履修した学生からは高い評価を得ているが、受入団体数、実習学生数は伸び悩んでおり、その要因を十分分析した上で、対応策を検討されたい。</li> </ul>	<p>【総合教育C】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合教育センターにおいて、全学共通教育科目「インターンシップ」の履修状況等を分析し、今後の受講者増対策としては、開講前の学生への周知が重要で、かつ有効であるとの結論に至っている。現在、学生への周知方法等について当該科目担当教員を中心に具体的に検討を進めている。</li> </ul> <p>【経営情報学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学部の専門型インターンシップ(経営情報学実践実習)は受入先企業が限定され、受講者を制限してきた。専門型インターンシップの実施方法について、今後、学部で検討する。</li> </ul> <p>【生命環境学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修により得られる成果や効果等について、学生に対する指導・情報提供を入学時から推進し、十分に周知を図ることとした。また、就職支援の一環として行っている企業開拓・企業訪問の際に、インターンシップ制度への協力依頼を併せて行うこととした。</li> <li>産学連携に係る共同研究機関である企業との間で、インターンシップの受け入れの可能性を協議する。</li> </ul>

区分	頁	意見・指摘事項	各担当部局における対応状況
教育	25	<b>【GPA・GPC制度の活用】(No.58)</b>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GPA制度については、引き続き、教員が個々に行う教育活動を検証し、教育の質の向上を図るため、段階的公表も含めた具体的な活用方法を全学的に検討し、制度の効果的な運用に努められたい。</li> </ul>	<p><b>【人間文化学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各科目GPCを教授会で相互に検証するとともに、学科ごとに教育改善に向けた資料として活用する。</li> <li>・ 特に、複数担当者開講科目については、GPCの水準を揃える方策を検討する。</li> </ul> <p><b>【経営情報学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GPAについては、教員への情報提供のレベルに留まっていることから、その具体的な活用方法について、引き続き検討する。</li> </ul> <p><b>【生命環境学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部教務委員会で検討し、各学期の教授会において全科目のGPCを各教員が情報共有し、各教員の教育の質向上のための参考とするようにした。</li> </ul> <p><b>【保健福祉学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、GPCを教授会で閲覧し教育活動に偏りが無いかどうかを協議したのち、全教員の情報共有を図るために学科ごとに閲覧して協議し、その後、回収している。教職員専用イントラネットでの学内共有化などを手始めに、教育活動の指標の一つとして活用する方法を検討する。</li> </ul> <p><b>【総合学術研究科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GPA制度の導入・活用を検討している。</li> </ul> <p><b>【総合教育C】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成25年度の高等教育推進部門会議において継続して審議を行った。平成27年度の教育改革と合わせてGPA制度の見直しを行う予定とし、次の通りGPCの活用について素案をまとめた。</li> <li>(ア) GPA及び成績分布に関する情報共有に努め、授業改善の指標として利用する。</li> <li>(イ) 同一科目で担当者が異なる科目について、評価基準の妥当性を検討する。</li> </ul>

区分	頁	意見・指摘事項	各担当部局における対応状況
	26	<p><b>【キャリアセンターにおけるキャリア形成支援】(No.87)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアセンターの満足度について、平成24年度の大学全体の平均が90.2%に対し、庄原キャンパスのキャリアセンターの満足度は、55.9%となっており、平均を大幅に下回っている。</li> <li>引き続き、各キャンパスの特性に十分配慮したきめ細かな就職支援等に努められたい。</li> </ul>	<p><b>【総合教育C】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアセンターの利用状況は改善しつつあるが、面接準備等の重要な場面で十分に活用されていない状況が見られた。就職ガイダンス等で利用方法や有益性についての情報提供を重ね、活用を促している。また、個別相談に加えて模擬面接（トレーニング）を適宜実施することとした。</li> </ul> <p><b>【生命環境学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生が志望する職種や分野（医療、健康、バイオ、食品、化学工業、環境分析など）に関する専門的な支援が不十分との分析結果に基づいて、学部の専門教員の積極的な関与の必要性が指摘されている。今後は、フレッシュマンセミナー、キャリア教育の中で専門教員の関与・指導を考えることとしている。また、学部教員とキャリアアドバイザーやキャリア教育担当教員との連携を強化する必要がある。</li> </ul>
大学運営	29	<p><b>【給与制度の弾力的運用】(No.147)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給与制度の運用状況と実績等の給与への反映のあり方について、学内に「意見交換会」を置き、他大学の状況等の調査・研究を行っているものの、実際に給与制度の弾力的運用は行われていない。</li> <li>このため、給与制度の弾力的運用に向けた課題等を整理した上で、他大学における先行事例も参考として、今後の対応について検討されたい。</li> </ul>	<p><b>【総務課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業績評価の給与反映について、平成28年度に試行実施することとし、これを目途に制度設計等を行うよう準備を進めている。</li> </ul>
		<p><b>【教員業績評価制度の導入】(No.152)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給与等への反映については他の公立大学における導入状況等の調査にとどまり、実施方策の具体的な検討には至っていない。引き続き、業績評価の給与等への反映に向けて、検討を進められたい。</li> </ul>	<p><b>【総務課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業績評価の給与反映について、平成28年度に試行実施することとし、これを目途に制度設計等を行うよう準備を進めている。</li> </ul> <p><b>【経営企画室】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度における給与等への反映を前提とした教員業績評価制度の見直しに係る実施計画を策定した。今後は、平成29年度を目途として、導入に向けた取組みを計画的に実施する。</li> </ul>
		<p><b>【事務職員評価制度の導入】(No.153)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度から法人職員の勤務評定を実施しているが、県が導入している「目標申告・成果評価」制度は導入されていないことから、導入に向けた検討を進められたい。</li> </ul>	<p><b>【総務課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標管理制度の導入に向け、平成26年度から試行を行うこととし、実施方法を整理中である。</li> </ul>